

科 目 名	英語 (LR)	担当者名	児 嶋 一 男
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	英語を聴きとる訓練（30分）と英文の精読（60分）戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交される話し言葉を意識して、日本語の翻訳表現を考える。一回に約10ページ進み、英文を読む量を増やす。		
講 義 概 要	英語を聴いて、書き取る練習を行う。続いて人気のミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』の台本を精読する。できれば暗記してスタジオで上演することを考えている。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>The Sound of Music</i>	
	参 考 文 献	授業中に話す。	
評 価 方 法	毎回の簡単な vocabulary テスト、前期・後期の定期試験など。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	第一回目に <i>The Sound of Music</i> 最初の - のページと pp.1-5 を読み、vocabulary テストを行う。準備して出席すること。		

科 目 名	英語 (LR)	担当者名	飛 田 ル ミ
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	英語の 4 技能におけるコミュニケーション活動に必要なスキルを効果的に習得することを目標とし、英語による異文化理解とコミュニケーション能力の向上を目指す。		
講 義 概 要	前期はイギリスのロンドンを舞台にしたドラマ、及び現代のイギリス社会を紹介するタスク重視型のビデオ教材を利用し、リスニング、リーディングを中心に英文の大意を速く、正確に把握する訓練を行ないながら異文化理解を深める。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現方法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識したアクティブな学習活動を行ない実際に使える英語能力を身に付ける演習を展開する。		
使 用 教 材	テキスト	Cousin William 1 成美堂 The Essence of College English Dictation (大学英語ディクテーションのエッセンス) 朝日出版	
	参 考 文 献	授業にて案内	
評 価 方 法	学期末試験、レポート、及び平常点(出席状況、授業内での発言、小テスト等)を総合して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。		

- 1 . 講義概要、評価について解説
イギリスに関するビデオを紹介
- 2 . Text : Prologue The Family Tree
- 3 . Unit 1 : Who Are You ?
- 4 . Unit 2 : General Purpose Clothing
- 5 . Unit 3 : Alchemist and Philosopher
- 6 . Unit 4 : Today's Carts
- 7 . Unit 5 : What's Got into Larry ?
- 8 . Unit 6 : A Convertible Couch
- 9 . Unit 7 : Romantic Sally
- 10 . Unit 8 : Lost in the City
- 11 . Unit 9 : Ground Floor
- 12 . Unit 10 : William Spills the Beans
- 13 . Unit 1 ~ 10 の復習
- 14 . Unit 11 : It's Fun
- 15 . Unit 12 : Frantic Reception
- 16 . Unit 13 : The Cost of a Sandwich
- 17 . Unit 14 : The Burglar
- 18 . Unit 15 : A Room with a View
- 19 . Unit 16 : Apologies
- 20 . Unit 17 : Two Nuts at the Post Office
- 21 . Unit 18 : White Bread and Orange Juice
- 22 . Unit 19 : The Gardener Next Door
- 23 . Unit 20 : Larry's Voice
- 24 . Unit 11 ~ 20 の復習

科 目 名	英語 (LR)	担当者名	板場 良久 (L) 永野 隆行 (R)
-------	---------	------	------------------------

講 義 の 目 標	現代の国際社会における様々な現象を英語を通じて理解し、同時に高校時代に得た英語力 (読む力と聞く力) の一層の向上を目指す。		
講 義 概 要	週 2 コマのうち、一方を指定テキストもしくは英字新聞などの切り抜きを読み進める英語講読 (reading) 中心の授業とし、他方をビデオ教材等を使用する聞き取り (listening) 中心の授業として進める。講読中心の授業ではあらかじめ指名された学生が英文テキストや新聞切り抜きの和訳と内容についてのコメントの発表を行う形ですすめる。また聞き取り中心の授業においては、聞き取り方の基本から始め、徐々に内容把握の練習に移っていく予定。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	講読で使用するテキストについては、参加学生諸君の英語力を第一回目の授業で判断した上で決定する。	
	参 考 文 献	毎回の授業内容にあわせた参考文献をその度ごとに紹介する。	
評 価 方 法	毎回の出欠、授業態度、学期末の試験、さらには時折要求されるレポートなどによる総合評価とする。なお欠席は4回以上 (半期あたり) すると、学期末の総合評価が一段階落される (例えば学期末の総合評価がAであっても、欠席を4回以上している場合は自動的にBとされる)。また遅刻は2回で欠席1回と見なされる。さらに授業中の私語、携帯電話の呼び鈴などについても、厳しい罰則を与える。		
受 講 者 対 する 要 望 等	何のために大学に入ったのかを十分考えた上で、授業に参加して頂きたい。		

科 目 名	英語 (SW)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	---------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>The overall goal of this program is to build a foundation of communicative competence based on the needs of the students, and in accordance with the overall goals of the department. This first term course of two terms will entail exposing students to the output skills of reading and writing twice a week, thereby building up said foundation that much more completely and quickly.</p>		
講 義 概 要	<p>While the specifics of how the teaching will be approached is in the domain of each respective instructor, it is expected that students will be concentrating on the output skills of speaking and writing, in accordance with the overall goal as laid out in the program goals (above).</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>The specific teaching materials to be used will be determined by each individual instructor.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>The scoring and grading system applied will be determined by each individual instructor.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

The class-by-class syllabus for the term will be determined by each individual instructor.

年
間
授
業
計
画

科 目 名	スペイン語（入門・会話）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語（総合）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		
講 義 概 要	<p>（入門）では、映像・音楽なども使いながら、簡単なスペイン語史、スペイン語圏の地理・歴史・文化に係るスペイン語の基礎用語を学ぶ。また同時に、（総合）の補いとして、基礎語彙の習得、基本構文の練習を、ビデオ教材 <i>Viaje al español</i> などを使って行う。また、総合の進度にあわせて、確認の小テストを毎回おこなう予定である。（会話）では、語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使って、会話練習をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>「オーラ・アミーゴス」(芸林書房) そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する。</p>	
	参 考 文 献	<p>スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	
評 価 方 法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（入門・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が 60 点未満の場合には、（入門・会話）二単位の評価は、不可となるので注意のこと。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>スペイン語 の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>教科書「オーラ・アミーゴス」の文法項目に沿って、6 課あるいは 7 課まで学ぶ。主な文法項目は、名詞と形容詞、冠詞、基本動詞の使いかた、動詞直説法現在形の活用、点過去の活用である。本年度は、二コマ続きで授業をおこなう。時間配分については、担当者の指示にしたがっていただきたい。教科書に準拠したテープ教材での練習が入る場合もある。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)	
	参 考 文 献	<p>スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。</p> <p>辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	
評 価 方 法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	中国語 I (入門・会話)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	---------------	------	-----------

講義の目標	<p>(入門) では、中国語学習の開始にあたり、中国語の基礎において、最も肝要なる発音および中国語をとりまく事情等について解説する。</p> <p>(会話) では、総合で学んだ、発音および文法事項を踏まえ、実用的な運用能力を養うことを目的とする。</p>
-------	---

講義概要	<p>(入門) では、中国語学習の基本となる発音を専門の教科書を用い練習する。また、中国語の表現の中で重要である成語を学習する。もし、可能であれば、中国の事情、用語等についても解説したい。</p> <p>(会話) では、総合と同一の教科書を用い、総合で得た知識を運用できるようトレーニングする。具体的には教科書本文の暗唱、聞き取り、日文中訳などを行う。</p>
------	--

使用教材	テキスト	<p>(入門) では、プリント</p> <p>(会話) では、『新中国語』1 北京語言語学院編 中華書店 1000 円 (税抜き)</p>
	参考文献	

評価方法	(会話) では、毎回その週の進捗度テストを行い、また、期末に学年統一試験を行う。
------	--

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 授 業 計 画			
	週	教科書	内 容
	1	1・2 課	発 音
	2	3・4 課	発 音
	3	5・6 課	発 音
	4	7・8 課	発 音
	5	9・10 課	発 音
	6	11 課	①「是」を用いた文 (1) ②「吗」疑問文
	7	12 課	①限定語 ②構造助詞の「的」 ③疑問代詞を用いた疑問文
	8	13 課	①「有」を用いた文 ②限定語となる数量詞 ③疑問代名詞「几」
	9	14 課	復 習
	10	15 課	①形容詞述語文 ②諸否疑問文
	11	16 課	①動詞述語文
	12	17 課 18 課	①状況語 ②副詞「都」「也」 復 習
13	テスト		

科目名	中国語Ⅰ（総合）	担当者名	各担当教員
-----	----------	------	-------

講義の目標	初習者に中国語の発音及び基本的な文法事項を身につけさせることを目的とする。			
講義概要	中国語の発音及び基本的な文法を、教科書に沿って学習してゆく。			
使用教材	テキスト	『新中国語』1 北京語言学院編 中華書店 1000円（税抜き）		
	参考文献			
評価方法				
受講者に対する要望など				
年間授業計画		週	教科書	内容
		1	1・2課	発音
		2	3・4課	発音
		3	5・6課	発音
		4	7・8課	発音
		5	9・10課	発音
		6	11課	①「是」を用いた文（1） ②「吗」疑問文
		7	12課	①限定語 ②構造助詞の「的」 ③疑問代詞を用いた疑問文
		8	13課	①「有」を用いた文 ②限定語となる数量詞 ③疑問代名詞「几」
		9	14課	復習
		10	15課	①形容詞述語文 ②諾否疑問文
		11	16課	①動詞述語文
		12	17課 18課	①状況語 ②副詞「都」「也」 復習
		13	テスト	

科目名	英語 (LR)	担当者名	児嶋 一 男
-----	---------	------	--------

講義の目標	英語を聴きとる訓練 (3 0 分) と英文の精読 (6 0 分) 戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交される話し言葉を意識して、日本語の翻訳表現を考える。一回に約 6 ページ進み、英文を読む量を増やす。		
講義概要	英語を聴いて、書き取る練習を行う。シリアスなドラマ『地平線の彼方』の台本を精読する。できれば暗記してスタジオで上演することを考えている。		
使用教材	テキスト	<i>Beyond the Horizon</i>	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	毎回の簡単な vocabulary テスト、前期・後期の定期試験など。		
受講者に対する要望など	第一回目に <i>Beyond the Horizon</i> 16 ページの 24 行目まで読み、vocabulary テストを行う。準備して出席すること。		

科目名	英語 (LR)	担当者名	飛田ルミ
-----	---------	------	------

講義の目標	英語の4技能におけるコミュニケーション活動に必要なスキルを効果的に習得することを目標とし、英語による異文化理解とコミュニケーション能力の向上を目指す。		
講義概要	後期は現代のアメリカ文化・社会を紹介したビデオ教材、テキスト、プリント等を利用し、4技能のリスニング、リーディングを中心に、英文の大意を速く、正確に把握する訓練を行ないながら異文化理解を深める。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現方法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識したアクティブな学習活動を行ない、実際に使える英語能力を身に付ける演習を展開する。		
使用教材	テキスト	Inside Stories U.S.A. ビデオで学ぶアメリカ文化 成美堂 The Essence of College English Communication (大学英語コミュニケーションのエッセンス) 朝日出版社	
	参考文献	授業にて案内	
評価方法	学期末試験、レポート、及び平常点(出席状況、授業内での発言、小テスト等)を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。		

年 間 授 業 計 画	<p>1 . 講義概要、評価について解説 アメリカに関するビデオを紹介</p> <p>2 . 1 . The Birthplace of Jazz</p> <p>3 . 2 . On the Road</p> <p>4 . 3 . Your Cigarettes or Your Job</p> <p>5 . 4 . The Amish Way of Life</p> <p>6 . 5 . Is Gun Control Possible ?</p> <p>7 . 6 . Making a Living on the Internet</p> <p>8 . 7 . The Cowboy Tradition</p> <p>9 . 8 . Cocaine Babies</p> <p>10 . 9 . The American Way of Shopping</p> <p>11 . 10 . The Most Important Things in Life</p> <p>12 . 1 ~ 10 の復習</p> <p>13 . 11 . Volunteer Activity</p> <p>14 . 12 . Next Stop Space Station</p> <p>15 . 13 . Jeans Are Forever</p> <p>16 . 14 . Sue You Later</p> <p>17 . 15 . Thanksgiving Day</p> <p>18 . 16 . Parental Abduction</p> <p>19 . 17 . Shopping for a Christmas Tree</p> <p>20 . 18 . Seeking a Better Life</p> <p>21 . 19 . The Era of Designer Vegetables</p> <p>22 . 20 . Lobsterman - An Island Boy's Dream</p> <p>23 . 11 ~ 20 の復習</p> <p>24 . 1 ~ 20 の復習</p>
----------------------------	---

科目名	英語 (LR)	担当者名	板場 良久(L) 永野 隆行(R)
-----	---------	------	----------------------

講義の目標	前期の英語 (LR)での学習を踏まえて、引き続き、現代国際社会における諸現象の理解と、英語力の向上を目指す。		
講義概要	<p>プログラムは前期英語 (LR)と同様。すなわち週2コマのうち、一方を英語講読(reading)中心、他方を聞き取り(listening)中心の授業として進める。</p> <p>前期の講読中心の授業では、比較的短い英文記事などを対象としていたが、今回は論説文、エッセイなどの長文をテキストとして使用する。細密な和訳にあまりこだわらず、論文全体のポイントを把握することを主眼としたい。担当学生は論文の要約を簡潔にまとめ、さらに疑問点については事前に調べ、授業で発表することが要求される。英文を単に「訳す」のではなく、「読んで理解し」、そこから「情報を得る」ことを目指す。</p> <p>聞き取り中心の授業においては、聞き取り方の基本から始め、徐々に内容把握の練習に移っていく予定。</p>		
使用教材	テキスト	講読で使用するテキストについては、その都度配布する。	
	参考文献	毎回の授業内容にあわせた参考文献をその度ごとに紹介する。	
評価方法	毎回の出欠、授業態度、学期末の試験、さらには時折要求されるレポートなどによる総合評価とする。なお欠席は4回以上(半期あたり)すると、学期末の総合評価が一段階落される(例えば学期末の総合評価がAであっても、欠席を4回以上している場合は自動的にBとされる)。また遅刻は2回で欠席1回と見なされる。さらに授業中の私語、携帯電話の呼び鈴などについても、厳しい罰則を与える。		
受講者に対する要望など	後期になると、大学にもようやく慣れ、気持ちがゆるみがちになるので、そのようなことのないように十分注意して頂きたい。		

科目名	英語 (SW)	担当者名	各担当教員
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>The overall goal of this program is to build a foundation of communicative competence based on the needs of the students, and in accordance with the overall goals of the department. This second term course of two terms will entail continuing to build on the skills achieved in the first term, with which students should be able to apply, or further build on, the knowledge and skill learned to future courses, whether language or content-based.</p>		
講義概要	<p>While the specifics of how the teaching will be approached is in the domain of each respective instructor, it is expected that students will be concentrating on the output skills of speaking and writing, in accordance with the overall goal as laid out in the program goals (above).</p>		
使用教材	テキスト	<p>The specific teaching materials to be used will be determined by each individual instructor.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>The scoring and grading system applied will be determined by each individual instructor.</p>		
受講者に対する要望など			

The class-by-class syllabus for the term will be determined by each individual instructor.

年
間
授
業
計
画

科目名	スペイン語（基礎表現・会話）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（基礎表現）では、（総合）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		
講義概要	<p>（基礎表現・会話）：（基礎表現）は、（入門）の続きの授業である。（総合）の補いとして、基礎語彙の習得（2000語＋）、基礎構文の練習を、（入門）に引き続いてビデオ教材 <i>Viaje al español</i> などを使って行う。また、簡単な解説文、物語を読むことで、読解力獲得の第一歩とする。また、総合の進度にあわせて確認テストを毎回おこなう予定である。（会話）では、基礎語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使った会話練習をおこない、能動的な聞く能力、話す能力の拡大を目指す。</p>		
使用教材	テキスト	<p>「オーラ・アミーゴス」(芸林書房) そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（基礎表現・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が60点未満の場合には、（基礎表現・会話）二単位の評価は、Dとなるので注意のこと。</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語 の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>スペイン語 の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>（総合）教科書「オーラ・アミーゴス」の文法項目に沿って、7 課あるいは 8 課以降、12 課まで学ぶ。主な文法項目は、点過去と線過去の使いかた、命令、接続法の活用と使いかたである。本年度は、ニコマ続きで授業をおこなう。時間配分については、担当者の指示にしたがっていただきたい。教科書に準拠したテーブ教材での練習が入る場合もある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	中国語（基礎表現・会話）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>（基礎表現）は、基本的な中国語の表現を身につけることを目的とする。</p> <p>（会話）は、総合で学んだ、発音及び文法事項を踏まえ、実用的な運用能力を養うことを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>（基礎表現）は、総合・会話で学んだ知識をいかし、自然な中国語で表現する力を養成する。</p> <p>（会話）は、総合と同一の教科書を用い、総合で得た知識を運用できるようトレーニングする。具体的には教科書本文の暗唱、書き取り、日文中訳などを行う。中（会話）の続き。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>（基礎表現）は、プリント。</p> <p>（会話）は、『新中国語』、北京語言学院編 中華書店 各 1000 円（税抜き）</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>（会話）は、毎週、進捗度テストを行い、期末には統一テストを行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

週	教科書	内 容
1・2	19 課 20 課 21 課	「是」を用いた文(2) 選択疑問文 数の数え方 疑問代名詞「多少」 銭の数え方 名詞述語文 時間詞 主述述語文
3・4	22 課 23 課 24 課	復習 月日の言い方 二重目的語 前置詞構造 人+「那儿」「那儿」
5・6	25 課 26 課 27 課	程度補語 復習 動詞「在」 存在を表す「在」「有」 方位詞
7・8	28 課 29 課 30 課	能願動詞 目的語の前置 語気助詞「了」 復習
9・10	31 課 32 課 33 課	動詞の完了 副詞「才」と「就」 連動文(1) 序数 代名詞「每」 構造助詞「的」(2) 「从...起」と「从...到」 構造助詞「地」
11・12	34 課 35 課 36 課	復習 結果補語 主語や目的語になる動詞(構造) 語気助詞「了」(2) 「要...了」 「以前」と「以后」
13	テスト	

科 目 名	中国語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	---------	------	-----------

講 義 の 目 標	初習者に中国語の正確な発音及び基本的な文法事項を身につけさせることを目的とする。		
講 義 概 要	中国語の発音及び基本的な文法を、教科書に沿って学習してゆく。中（総合）の続き。		
使 用 教 材	テキスト	『新中国語』、北京語言学院編 中華書店 各 1000円（税抜き）	
	参 考 文 献		
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年
間
授
業
計
画

週	教科書	内 容
1・2	19 課	①「是」を用いた文(2) ②選択疑問文
	20 課	①数の数え方 ②疑問代名詞「多少」 ③銭の数え方
	21 課	①名詞述語文 ②時間詞 ③主述述語文
3・4	22 課	復習
	23 課	①月日の言い方 ②二重目的語
	24 課	①前置詞構造 ②人+「这儿」「那儿」
5・6	25 課	①程度補語
	26 課	復習
	27 課	①動詞「在」②存在を表す「在」「有」 ③方位詞
7・8	28 課	①能願動詞 ②目的語の前置
	29 課	①語気助詞「了」
	30 課	復習
9・10	31 課	①動詞の完了 ②副詞「才」と「就」
	32 課	①連動文(1) ②序数
	33 課	③代名詞「每」 ①構造助詞「的」(2) ②「从…起」と「从…到」 ③構造助詞「地」
11・12	34 課	復習
	35 課	①結果補語
	36 課	②主語や目的語になる動詞(構造) ①語気助詞「了」(2) ②「要…了」 ③「以前」と「以后」
13	テスト	

科 目 名	ボランティア論	担当者名	青 柳 多恵子
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ボランティアは西洋キリスト教思想の慈善型の奉仕精神による、一方通行的な無償性の奉仕を基本としていた。産業革命を境に、社会構造の変革に伴う人々の意識の変化が、個人的なボランティアを組織的・継続性が求められはじめ、ボランティアの原義である自発性〔自主性〕無償制（無給性）・社会性（公益性）が時代の思想的・構造的変化と相まって大きく変化してきた。ボランティア活動の理解はもとより、活動の意義とその必要性を現代文化や科学の発展と同様の行動文化として、その動向と意義を解明し実践していくことを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>ボランティアの歴史の変遷と社会状況の変化との関連について検索し、人間の本質ともいえる助け合い・分かち合いとは強者が弱者に与えるものではなく、人は自分自身が困っているときにさえ、自分にできる範囲で他の人を助ける優しい気持ちを持っているのです。産業社会と人間の生活や、人としての本来の生き方である、人間の思いやりや愛情の伝達と人が持つ善意をボランティアという行為によって表現し活用する意義について認識し、ボランティアそのものの量的、質的な関心と参加する事の基本的な見直しと、組織的な協力関係や今や団体のマネジメント能力の確保もこの学問の領域といえます。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献		
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>国際的視野に立って考えられる、考えたいとしている学生</p>		

1. ボランティアの歴史の変遷
2. 個としてのボランティア・組織としてのボランティア
3. ボランティアの基本コンセプト
4. ボランティアの理解と実践
5. 恵みとしての扶助・一方通行的な援助としてのボランティア
6. 日本でのボランティアの現状
7. 世界的ボランティアの現状
8. 近代社会のボランティアの特性
9. 双方向性・互酬性の理念
10. 公的・社会的福祉制度・社会保障と民間サービスの将来像
11. 20世紀の物質文明の限界・21世紀での転換
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科 目 名	現代世界論	担当者名	有 吉 広 介
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	現代の国際化時代に必要なグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標にする。		
講 義 概 要	まず、21世紀世界のボーダーレス状況を認識するために、経済のボーダーレス化現象に関係が深い「世界的な金融市場」と、社会のボーダーレス化現象の一つ、いわゆる「外国人労働者」とを取り扱う。第2に、国際社会において古くて新しい問題である「南北問題」の理解を深める。第3に、異文化接触において起こる「言語問題」からボーダーレス現象へのアプローチを示す。第4に、異文化理解の手法を「インド・ネパールの文化」研究において学ぶ。最後に、世界的な人口の高齢化状況に関して、いくつかの国における高齢者の生活および意識と、文化との関係をとらえる。		
使 用 教 材	テキスト	テキストを使わないが、資料を配布する。	
	参 考 文 献	桑原靖夫「国境を越える労働者」(岩波書店) 同著「あなたの隣人外国人労働者」(東洋経済新報社)など。講義時に紹介するものがある。	
評 価 方 法	レポートの評価		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	多面的にサブ・テーマを設定したので、よく出席し、講義の要点をよく把握すること。		

1. グローバルな市場経済では、巨額なおかねが世界的な投機に使われ、一国の政治・経済を揺るがせている。その主役、ヘッジファンドのデリバティブ取引の実態をのぞいてみる。
2. グローバルなマネー市場では、市場同士の競争も激しい。市場の競争力強化と市場の暴走抑制が必要となる。日本の金融ビックバン、アジアの金融危機対応を例として考えてみる。
3. グローバルな世界経済の下、労働力は国境を越えて移動する。しかし不法入国者の急増、経済危機下に強制送還される労働者、母国に戻れない労働者など新たな問題が生まれる。
4. 21世紀に向けて日本は、アジアや南米諸国との関係でいかなる立場に立ち、そして多様化する国際労働力移動の流れにいかに対応すべきなのかを、世界潮流に即して理解したい。
5. 観光、組み立て産業、麻薬密輸、不法移民など様々な側面をもつメキシコの国境都市・ティファナに、先進国・アメリカ合衆国と発展途上国・メキシコの文化交流の歴史をみる。
6. 合衆国の圧倒的な影響の下にメキシコ北部においていかにメキシコ性が形成されてきたかという問題を歴史的に追う。
7. 言語を異にする人びとが伝達のために形成する混成的共通語・ピジンの構造と機能を、韓国バンブー英語、中国沿岸ピジン英語などを例にして説明する。
8. 母語になったピジンがクレオールである。ピジンとクレオールの歴史と分布、それに両者の言語的特徴（発音、語彙文法）を問題にする。
9. 異文化理解のよりよい方法は、その文化のなかで生活し、体験を通して文化を理解することである。インド・ネパールでの事例を通して考える。
10. 「計画作成」、「現地での実行」、および「体験の表現」という過程を通じて異文化の理解にいたる手法を考える。
11. 高齢者の生活と意識に関して総務庁が国際比較調査を4回おこなった。この調査の結果を中心に日本、アジア諸国、そして欧米諸国の高齢者の生活の特徴を比較する。
12. 日本、アジア諸国、そして欧米諸国の間にある高齢者の生活と意識の違いがそれぞれの文化と深く関係することを説明する。

科 目 名	言語文化概論	担当者名	下 川 浩
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>外国語学部共通の教育目標は、外国語の学習を通じて、日本語および日本人の生活様式・文化と対照しつつ、異なる言語を話す人々の生活様式・文化を知ることである。その際、言語と文化・生活様式は相互に密接な関係にあるということが、自明のこととして前提されている。本講義の目的は、この前提、すなわち言語と文化・生活様式の相互関係を、特定の言語・文化に中心化することなく、概括的に論じることである。</p>		
講 義 概 要	<p>言語と文化・生活様式の相互関係を見るにあたり、当然それらの担い手または主体である人々を中心にすえる必要がある。けれども、同じような言語と生活様式・文化を担う人々を民族と言うことについては、今日、事実と理論の両面から疑問が生じている。人々が出会い、ふれ合い、共同の生活を営む中で、共通の言語と文化が形成されるのであるが、はじめは生活環境の変化により、移動を余儀なくされ、移動がかなわぬようになったのちには、たがいの生活領域と手段を奪い合うことによって、今日の民族・言語・文化の多様性が形成されたのである。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>未完成。(マルチメディア・テキスト使用の予定)</p>	
	参 考 文 献	<p>高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社) 伊藤克敏他編著「ことばと人間」(三省堂) 下川 浩「現代日本語構文法」(三省堂)ほか</p>	
評 価 方 法	<p>随時レポートを課し、各自の実績にもとづく自己評価を基本にしたい。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義という形をとった伝え合いを通じ、話し合いのしかたが学べるように、積極的に質問や意見発表をしてもらいたい。</p>		

1. 人と人が出合うとき、ふれ合いと伝え合いが起こる。伝え合い(コミュニケーション)とは
 どのようなことか？
2. 伝え合いにはコトバによるものとよらないものがある。コトバによる伝え合いはコトバによ
 らない伝え合いとどう違うのか？
3. コトバによる伝え合いの手段であるとともに産物である言語とはどのようなものか？
4. 世界には、どんな言語がどのように分布しているか？
5. どんな言語をどんな民族が用いているか？
6. 民族は歴史的にどのように形成されてきたか？民族移動はどのように行われたか？
7. 文化はどのように形成されてきたか？
8. 思想・宗教はどのように人々の生活様式と関係し合うのか？
9. 「民族紛争」をどのように考えるべきか？
10. ふれ合い(社会的相互行為)と伝え合いの原則とは？
11. ウソとコトバの魔術はどのように違うのか？
12. 言語文化は平和で豊かな国際社会とどのように関わり合うか？
 (以上は予定であるから、講義の展開により、多少のズレ、変更がありうる。)

科 目 名	比較思想概論	担当者名	松 丸 壽 雄
-------	--------	------	---------

講義の目標	日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。		
講義概要	東洋思想と西洋思想とを比較検討する。東洋思想としては、インドのウパニシャッド哲学、ジャイナ教思想、仏教思想、中国の易経などの古代思想、儒教（朱子学等の宋学も含む）、日本では神道、儒学思想、国学思想、日本近代の哲学思想を概観する。西洋思想としては、キリスト教思想（イスラム思想にも触れる）、ドイツ観念論、実存思想、フランスの現象学的思想などに触れる。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示	
評価方法	レポートの内容により評価		
受講者に対する要望など	講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。 2. インドの思想（1）ウパニシャッドとジャイナ 3. インドの思想（2）仏教 4. 中国の思想（1）易経と古代儒教 5. 中国の思想（2）古代儒教と宋学 6. 日本の思想（1）記紀に見られる思想と神道と国学思想。 7. 日本の思想（2）儒学思想と開化思想。 8. 日本の思想（3）明治思想と西田哲学。 9. 西洋思想（1）キリスト教思想（イスラム思想も含む）。 10. 西洋思想（2）ドイツ観念論と実存思想。 11. 西洋思想（3）フランスの現象学的思想とキリスト教。 12. 東洋思想と西洋思想の比較・検討。 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科目名	日本文化論	担当者名	小島幸枝
-----	-------	------	------

講義の目標	日本文化の諸様相とその特質、および問題点を16、7世紀（大航海時代）のキリシタン資料の実証的研究を通じて明らかにしたい。従ってヨーロッパ文化との比較研究の特徴をもつ。		
講義概要	大航海時代の日本学は、ヨーロッパ人は第三者の視点で、当時の日本の政治状況、経済状況、文化、思想、宗教、生活、風俗に関して、客観的かつ具体的に記述したものである。これを紹介しつつ、現代と（時には古代日本にも目を向けながら）比較して日本文化の特質を確認していきたい。		
使用教材	テキスト	松田毅一・ヨリッセン『フロイスの日本覚書 - 日本とヨーロッパの風習の違い』（中公新書）	
	参考文献	大航海時代叢書（岩波書店） フロイス『日本史』全12巻（中央公論） フロイス『日本史』全5巻（東洋文庫）平凡社 『探訪 大航海時代の日本』全8巻（小学館）	
評価方法	テスト		
受講者に対する要望など	出席を重視する		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大航海時代とその資料（ヨーロッパの状況） 2. 日本人男性の風貌と衣服について 3. 日本人女性の風貌および風習について 4. 日本人の食事を飲酒の作法 5. 日本の宗教（坊主、ならびにその風習、葬礼、寺院、その宗派の信仰について） 6. 同上 7. 同上 8. 日本の病気、医者、および薬について 9. 同上 10. 日本の貨幣、重量、尺度、商業、その他について（又は、日本の劇、舞踊、歌、および楽器について） 11. 同上 12. 日本人の書法、その書物、紙、インク、手紙について 13. 日本語 書記言語としての 往来物 14. 口頭言語として 敬語法 15. 同上 16. 国の成立（神話にみる日本誕生） 17. 日本の国土 18. 日本人の習慣と価値観 19. 同上 20. 日本の家屋 21. 日本の情勢（戦国時代と為政者） 22. 日本人の死生観 23. まとめ 24.（予備） 		

科 目 名	日本語研究概論	担当者名	城 田 俊
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	新しい日本語学は言語学の基礎の上に構築する必要がある。講義では言語学の初歩的知識をやさしく説明し、それを出発点にして日本語を眺めると、音声、文法、語彙の水準においてどのような構造・組織・体系が見出されるかを綿密にとく。				
講 義 概 要	新しい言語学の出発点となったソシュールの学説を紹介し、それを発展させていったトルベッコイ、ヤコブソン等々の理論を解説する。「構造」の概念の理解のために重要な音韻論の基礎知識を伝え、その上で日本語の子音体系、母音体系を解明し、基本体系と第二体系の差を説明する。言語（ひいては日本語）がなぜ変化するのか、駆動力は何かを考察する。文法論の分野では文法カテゴリーの言語学的定義を把握し、日本語にはいかなるカテゴリーが存在し、いかなる形態によって表現されているかを観察する。意味論、語彙論の分野では語彙函数の理論を説明し、日本語のコローション面に注意を払い、語彙力・文章力の涵養に努める。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>必要な場合プリントして配布する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> トウルベッコイ 『音韻論の原理』(長嶋 善郎訳・岩波書店) 『ロマン・ヤーコブソン選集』1・2 (大修館書店) 城田 俊 『日本語の音』(ひつじ書房) 城田 俊 『日本語形態論』(ひつじ書房) 城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』(リベルタ出版) </td> </tr> </table>	テキスト	必要な場合プリントして配布する。	参考文献	トウルベッコイ 『音韻論の原理』(長嶋 善郎訳・岩波書店) 『ロマン・ヤーコブソン選集』1・2 (大修館書店) 城田 俊 『日本語の音』(ひつじ書房) 城田 俊 『日本語形態論』(ひつじ書房) 城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』(リベルタ出版)
テキスト	必要な場合プリントして配布する。				
参考文献	トウルベッコイ 『音韻論の原理』(長嶋 善郎訳・岩波書店) 『ロマン・ヤーコブソン選集』1・2 (大修館書店) 城田 俊 『日本語の音』(ひつじ書房) 城田 俊 『日本語形態論』(ひつじ書房) 城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』(リベルタ出版)				
評 価 方 法	前期・後期定期試験期間中に各一回行う。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。授業中受講者に質問することがある。授業への積極的参加が望まれる。				

1. コードとメッセージ、ラングとパロルの区別。コードとメッセージの諸関係。引用、固有名詞、語釈話法、人称代名詞。
2. 通時言語学と共時言語学。通時的日本語研究と共時的日本語研究。共時的日本語研究の優位性。共時態から通時態へ。
3. /a/の前にある日本語の子音、子音組織の解明方法。調音点、調音方法、無声性（清音）、有声性（濁音）、非口蓋化性（直音）、口蓋化性（拗音）等の理解。
4. /a/の前の子音の体系の分析。音素とは弁別の特徴の束である。ヒュームの人間の定義(a man is a bundle of a different perceptions)との相似。
5. 子音音素認定の手続き。子音音素体系。/e/の前にある日本語の子音。「中和」、archiphoneme（原音素）とは何か。音素から弁別素性へ。
6. 母音音素認定の手続き。母音音素体系。音声学と音韻論。
7. 基本体系と第二体系。日本語の音節体系の発展。通時態は共時態の中にある。通時と共時の和解放。構造的要因。構造主義について。
8. 形態論。文法カテゴリーの研究（1）。動詞の文法カテゴリー。《性》（ジェンダー）、《数》（ナンバー）。
9. 《肯定・否定》、日本語の《否定》。
10. 《人称》。《時制》。日本語の《時制》。《相対的時制》（《順序》）と《時制》の区別。
11. 《態》。日本語の《態》と《アスペクト》。《態》と《人称》と《やり・もらい》。
12. 前期まとめ。前期試験の概要説明。
13. 《話法》。日本語の《話法》。《伝達話法》（《叙述話法》と《推量話法》）、《呼び掛け話法》（《意志・勧誘話法》と《命令話法》）。
14. 《推量話法》の研究。
15. 語尾形。語幹形（基本語幹形と二次語幹形）結合形。文形の区別、名詞の文法カテゴリー。日本語の《ジェンダー》。助数詞。格。格助詞。副詞格と文法格。格助詞かダの変化形か。
16. 意味論・語彙論・文法論。慣用の研究。語彙函数。構造語彙論。
17. 強め - 強調語。讃え - 称讃語。正しさ - 真正語。
18. 動詞化動詞。始まり - 開始語。終わり - 終止語。完了 - 完了語。続き - 継続語。繰り返し - 反復語。
19. 充たし - 充たし語。生み - 生成語。調え - 調之語。ゼロ化 - 無化語。悪化 - 悪化語。攻撃 - 攻撃語。成果 - 成果語。鳴き声のオノマトペ。
20. コトとコトの参加者（復習）。参加者を示す名詞。時・場所・状況を示す名詞。
21. 助数詞。集合 - 集合語。集団 - 集団語。成員 - 成員語。頭（かしら） - 頭目語。
22. 同義・類義 - 同義語・類義語。敬い - 敬語。反義 - 反義語。
23. 反転 - 反転語。総括 - 総括語。品詞転換 - 品詞転換語。
24. 後期まとめ。全体の展望。後期試験の概要説明。

科 目 名	スペイン・ラテンアメリカ文化論	担当者名	野々山 ミチコ
-------	-----------------	------	---------

講義の目標	スペインとラテンアメリカ関係の変遷を文化その背後にある政治、外交を中心に概観する。これによってスペインとラテンアメリカを一体化するイスパノ世界の意義を問う		
講義概要	ラテンアメリカ独立前のスペインとラテンアメリカの接点を象徴する人物・ラテンアメリカ独立後のラテンアメリカ的なものの模索、現代スペインのラテンアメリカへの関わり方等を通しての歴史的な歩みを辿る。さらにスペイン語表現の特殊性を通じてスペイン語圏共通の精神構造を学ぶ。		
使用教材	テキスト	野々山真輝帆著『アミーゴとつきあう法』(晶文社)	
	参考文献	増田義郎著『ラテンアメリカ史』(中公新書)	
評価方法	テストと授業参加度		
受講者に対する要望など	ラテンアメリカはルーツとしてのスペインを学ばずには理解できないことを頭においてほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネブリツハとスペイン語 2. " 3. ラス・カサスのインディオ擁護 4. " 5. アンドレス・ベリヨとカスティリヤ語 6. " 7. スペインの植民地文化政策 8. " 9. ラテンアメリカ独立とスペイン98年代 10. サルミエントとウナムーノ 11. シモン・ボリバルのイスパノアメリカ主義 12. エンリケ・ロドの「アリエル」 13. ホセ・パスコンセーロスの「宇宙的人種」 14. ラテンアメリカのアイデンティティ 15. スペイン内戦とラテンアメリカ 16. イベリアとラテンアメリカのコーポラティズム 17. " 18. " 19. " 20. " 21. スペイン語の表現 22. " 23. " 24. " 		

科 目 名	現代中国論	担当者名	辻 康 吾
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>1949年に樹立され、現在“中国”と呼ばれている中華人民共和国は、建国50年を迎えた。建国直後の朝鮮戦争、57年の反右派闘争、58年の大躍進政策、66年の文化大革命、そして78年以降のいわゆる近代化政策への大転換など、現代中国の歩みは波乱と曲折に満ちている。この現代中国の歴史を概観し、またそれに先立つ約一世紀の歴史を知ることなしに、現代中国を理解することはできない。本講義では49年以降の重大事件、また重要人物に焦点を絞りながら、現代中国の歴史的ポジションを確認したい。</p>		
講 義 概 要	<p>1949年の中華人民共和国成立前夜の中国の内外状況を確認し、その後通史的に反右派闘争、人民公社、あるいは文化大革命などの重大事件、また毛沢東、周恩来、鄧小平など重要人物の役割を紹介する、その過程で中国における社会主義理論、対外政策の特徴などにも触れる。また現代中国を形作っている伝統中国・社会主義中国・近代化中国という三つの基本枠組みを具体的事例をもって紹介したい。講義後半では現代中国の直面する諸問題、つまり人口、環境、人権問題、教育、地域格差などを紹介し、学生にはテーマを選ばせて自己学習を行わせ、成果を報告させる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	岩波新書 小島晋治ら「中国近現代史」	
	参考文献	岩波書店「原典中国現代史」 大修館「中国百科」 各段階で関係資料・図書を指定する。	
評 価 方 法	出席点 20% 各回小テスト 20% 期末試験 30% 期末レポート 30%		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>現代史を中心に多数の資料・図書を読むこと。また可能な限り中国の古典類、現代文学、映画などを幅広く鑑賞し、自力で自分の中国観を創造して欲しい。</p>		

	<p>講義として20回分を準備する。その他は映画鑑賞、レポート報告会を行う。中国語既習者には原語資料による学習を求める。</p>
年	
間	
授	
業	
計	
画	
	<p>1. 建 国 辛亥革命 / 五四運動 / 共産党成立 / 国共内戦 / 日本の侵略 / 政治協商会議 / 新民主主義論 / 統一戦線 / 建国式典 / 建国の喜び</p> <p>2. 毛 沢 東(1) 生い立ち / 井冈山 / 長征 / 延安 / 理論業績 / 結婚</p> <p>3. 朝 鮮 戦 争 東西冷戦 / 中ソ条約 / 戦況 / 対ソ一辺倒 / ジュネーブ会議 / 中ソ蜜月</p> <p>4. 社会主義改造 3反5反運動 / 憲法制定 / 計画経済 / 党独裁体制 / 8全大会 / 過渡期の総路線 / 胡風批判</p> <p>5. 百 花 斉 放 雪解け / 人民内部の矛盾 / 党批判言論 / 毛独裁体制の始まり / 陰謀か陽謀か / 反右派闘争 / 冒進・反冒進</p> <p>6. 周 恩 来 生い立ち / 人柄 / 毛へ服従 / 文革の中 / 死亡 / 第一次天安門</p> <p>7. 大 躍 進 大躍進 / 人民公社 / 盲指揮 / 土法製鋼 / チベット動乱 / 大量餓死 / 七千人大会</p> <p>8. 彭 徳 懐 生い立ち / 朝鮮戦争 / 廬山会議 / 毛独裁 / 万言書 / 3線工作 / 死亡</p> <p>9. 中 ソ 論 争 東風压倒西風 / 米ソ接近 / フルシチョフ / 援助打ち切り / 核開発独自の路 / 国境紛争 / 和解 / 冷戦終了後</p> <p>10. 文化大革命(1) 十中全会 / 社会主義教育運動 / 知識人批判 / 姚文元論文 / 516指示 / 四人組 / 紅衛兵 / 16条決議 / 武闘 / 2月逆流 / 上海コムニオン / 上山下郷運動</p> <p>11. 劉 少 奇 生い立ち / 国家主席 / 毛との違い / 文革の中で / 死亡 / 名誉回復</p> <p>12. 林 彪 生い立ち / 平型関 / 国防相 / 毛崇拜 / 後継者 / 廬山会議 / 自滅</p> <p>13. 文化大革命(2) 913事件 / 革命委員会 / 鄧小平一時復活 / 第一次天安門事件</p> <p>14. 毛 沢 東(2) 毛沢東のユートピア / 継続革命論 / 文革と毛 / 個人崇拜 / 私生活 / 死亡</p> <p>15. 江 青 生い立ち / 結婚 / 革命京劇 / 四人組 / 特別法廷 / 自殺</p> <p>16. 対日・米国交 正常化 国際戦略転換 / 三つの世界論 / キッシンジャー訪中 / 田中訪日</p> <p>17. 大 転 換 華国鋒 / 洋躍進 / 鄧小平復活 / 民主の壁 / 3中全会 / 歴史決議 / 特別法廷 / 胡耀邦 / 趙紫陽 / 名誉回復</p> <p>18. 改革開放政策 農業改革 / 人民公社解体 / 企業改革 / 対外開放 / 思想開放 / 社会変動 / 第二次天安門事件</p> <p>19. 鄧 小 平 生い立ち / 8全大会で / 反右派闘争で / 文革期 / 一時復活 / 再復活 / その思想 / 天安門事件 / 南巡講話 / 香港返還 / 死去</p> <p>20. 個 別 課 題 民族問題 / 人口問題 / 環境問題 / 人権問題 / 食糧問題 / 台湾問題 / 現代文化 / 日中関係などに関する基礎的事実と問題提起</p>

